

2026 年度 天使大学大学院看護栄養学研究科
看護学専攻【ホスピス緩和ケア看護学領域】

一般選抜（Ⅱ期）

「専門科目（ホスピス緩和ケア看護学）」

試験日：2026年1月24日（土）

時間：9:30～10:30

答案作成上の注意

1. 問題紙は1枚です。
2. 解答用紙は3枚です。
3. 試験開始の合図のあとに問題紙、解答用紙が配られているか必ず確認してください。
4. 試験開始の合図のあとに解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。
5. 解答はすべて解答用紙に記入してください。
6. 解答用紙は横書きです。
7. 解答用紙が不足した場合、または交換したい場合は挙手してください。
8. 問題紙・解答用紙とも回収します。

天使大学大学院

問題1 以下の事例を読み設問に答えなさい。

【事例】

患者名：A氏 年齢：50歳代 性別：女性

診断名：右乳がんステージⅣ 骨転移

家族構成：会社員の夫 50歳代 子供2人（小学生1名、中学生1名）と同居

A氏は5年前に右乳房切除術を受けた後、放射線療法と化学療法も受けた。しかし、半年前から腰痛が出現、多発骨転移と診断された。ロキソプロフェンナトリウム 60mg錠 2錠/日が処方され、外来で疼痛マネジメントを行っている。ロキソプロフェンナトリウム 60mg錠 内服開始後、腰部の痛みは、NRS：9/10 から 6/10 へと一時的に緩和した。しかし、1週間前より腰痛が増強し、予約外で受診されたため、外来看護師は痛みのアセスメントをするために面接を行った。

「動くとズキッと痛い。家事も辛くなってきた。」と訴えがあることを主治医に相談し、ロキソプロフェンナトリウム 60mg錠 3錠/日に増量し、レスキュー薬としてオキシコドン塩酸塩水和物散 2.5mg/回が処方された。オキシコドン塩酸塩水和物散を内服すると、痛みはNRS：5/10まで和らぐが、今週は1日に6回内服している。体動時に腰部の痛みが増強するため、自宅のソファで横になっていることが多くなり、家事は夫が帰宅後に手伝ってくれている。

医師からは「積極的治療の適応はなく症状緩和を中心とした治療になる」とA氏と夫に説明している。A氏は「家族との時間を大切にしたい、痛みが落ち着けば旅行にも行きたい」と希望を伝えてくれるが、「痛みが続くと先のことを考え不安になる」「お兄ちゃんを私を気遣ってくれるけど、下の子はまだ小さいので病気のことをあまり伝えられていない。この先のことを考えると突然涙が出てくる。夫にも申し訳ない。」「夜も眠れない」と話される。

- 1) A氏の状態をアセスメントして看護問題を列挙しなさい。
- 2) 優先度の高い問題に対する看護目標と援助計画の概要を説明しなさい。

問題2 がん看護・緩和ケア領域の課題について、以下の中から一つ取り上げて自己の見解を述べなさい。

- 1 がん患者・家族の意思決定支援における課題
- 2 北海道における専門的緩和ケアにおける課題
- 3 終末期ケアに携わる看護師のストレスに関する課題

問題3 以下の中範囲理論の中から1つを選択し、理論の説明をしなさい。

危機理論、ストレスコーピング理論、セルフケア理論